



# The Japanese Academy of Home Care Physicians

○巻頭言				
日本在宅医学会への期待		辻 哲夫		1
○第11回 日本在宅医学会大会案内		中野 一司		3
○特集「在宅医療の本質」				
在宅医学は確立したのか？ 学会設立10年によせて		平原佐斗司		7
医療の本質と在宅医療		荒井 康之		13
在宅医療の本質		鈴木 央		17
出前医者17年 語り部としての在宅医療		太田 秀樹		25
○症例報告				
在宅で施行した心大血管リハビリテーションの経験		諸富 伸夫, 水間 正澄, 永田 宏		33
○報告				
在宅療養患者における有床診療所への短期入院の有用性				
—いせはら健康モデル事業からの報告—	谷亀 光則, 秋澤 孝則, 野地 暁, 石田 直人, 志村 功			37
在宅療養支援診療所としての問題点				
都市部と離島を比較して	泰川 恵吾, 久島 和洋, 今井 一登			43
○総説				
大学病院における在宅医療②				
—10分レクチャーによる啓蒙活動—	鶴岡 浩樹, 鶴岡 優子, 天海 陽子, 梶井 英治			47
○専門医制度委員会からのお知らせ				51
○在宅医学会専門医制度の概要				52
日本在宅医学会認定専門医制度規定	53	投稿承諾書		57
投稿規程	56	編集後記		60

## 日本在宅医学会への期待

前厚生労働省事務次官

厚生労働省顧問 辻 哲夫

我が国の高齢化への対応は、今後四半世紀の間に正念場を迎えるであろう。団塊の世代が高齢化するのに伴って、現在約2600万人の65歳以上の人口が、2030年には1000万人増加し、約3700万人になる。しかも、それはすべて75歳以上人口（後期高齢者人口）が占めていることになり、疾病構造も過去とは大きく異なり、生活習慣病が中心となっているであろう。

1965年頃には、死亡者に占める後期高齢者の割合は3割程度に過ぎなかったが、現在それは3分の2程度となり、2030年頃は4分の3に達するものと見込まれている。

このような日本史上経験をしたことのない大きな変化を迎えようとしている中で、後期高齢者へのケアシステムはこれまでの社会的な経験を経て、大きく変容して行くであろう。それは、人が老いていく過程において、人を入所施設で集団的に保護するといった形態で処遇すれば、ますますその心身の力を弱めるし、認知症の場合ますます問題行動を起こすであろう。むしろ、自宅や地域の中の小規模で、なじみのある住まいの形態をとった場で、それまでの日常の生活プログラムを維持することが必要であろう。つまり日常性を継続することが、最もその人の自立を維持でき、その人の尊厳を尊重した生活の質を維持できるという極めて重要なことを、社会的な取り組みの過程で発見したということである。

一方において医療の方はどうであろうか。人の日常性から離れたものであるとあって良い病院内で行われる医療は、臓器別に専門分化した姿でその治療の最前線の技術を競うということに追われ続けてきたかのように見えるのである。いうまでもなく、「医療」というものが病気や死で苦しむ人々を救うために育ってきたものであるとすれば、生老病死という人の定めに沿って死亡しているといえる後期高齢者が、死亡者の大部分を占めるという時代を目前としている今、近年の医療の形だけで国民の幸せへの願いに答えられるであろうか。世界の高齢化の最前線を歩んでいる我が国の医療は、好む好まぬを問わず大きな転換期に立っていると思う。

我が国は、戦後の目覚ましい経済成長を経て、物質的には世界もうらやむような豊かな経済社会を作り上げた。そして、平均寿命も世界のトップ水準を達成した。そのことが真に豊かな社会となったといえるようにするためには、この後期高齢期という人生の仕上げの時期の生活の質が問われている。これまでの経済発展の成果が何であったのかを問う、一つの重要な歴史的な課題ではなからうか。

他方、近年の医師不足問題は、その原因をめぐって様々な論議がなされているが、その一つの大きな背景として、医療が高度に専門分化する中で、かつては開業医を中心とする地域医療が支えていた医療の実態が変容し、その人全体を診るという医療の基本形が見失われ、結局幅広い診

療科目を有し、休日夜間の対応も行う病院への依存が深まり、病院の勤務医が疲弊しているということがあるのではないか。

要するに、その人全体を生活の中で診るという医療の佇まいが、見失われてきていることが大きな問題ではないか。

私は、約30年前に佐藤智医師にお会して以来、四半世紀近く在宅医療を学ばせて頂いてきた。そして今、「在宅医療の実践」こそ私がこれまで述べたような意味で、閉塞したかのように見える現在の医療の状況を突破する一つの大きな力であると確信している。私なりにあえて言わせて頂くと、在宅医療は一人一人の生活の場でその人生を織り成す生活を支えながら、その人の尊厳と生きる力を関係職種や地域と連携して精一杯支援しようとするものであり、それは「幅が広く高い水準の力量をもとめられる医療」の一つの明確にして重要なジャンルであると思う。しかもそれは今国民が強く望んでいるものである。

在宅医療の質あるいは水準というものの向上のため、不断の努力を行ってきた日本在宅医学会の関係者に心より敬意を表するとともに、今後ますますのご活躍により我が国の在宅医療が正しく力強く展開することを心より祈念している。